

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第503号 平成25年3月1日

ソーハラ

「セクハラ」「パワハラ」「アカハラ」「アルハラ」というのは既に世の中に定着した感がありますが、「ソーハラ」という言葉も最近広がりつつあるようです。

「ソーハラ」とは、SNS（ソーシャルネットワークサービス）を通じて派生している「ハラスメント」の略で、私的なネットワークに職場の人間関係が持ち込まれ、それがストレスになっている状態を指しているようです。

例えば、「身近な人に近況を知らせようと、約1年前にフェイスブックを始めた都内の広告会社の男性社員が、部長や課長からの友達申請に応じてしまったため、私的な話題を書き込めなくなった」「上司の書き込みをチェックし、評価している事を伝える『いいね！』ボタンをクリックする日々に」といった具合に、折角のソーシャルネットワークがストレスの元凶になっている（1月7日付朝日新聞）というのは、気の毒な気がします。

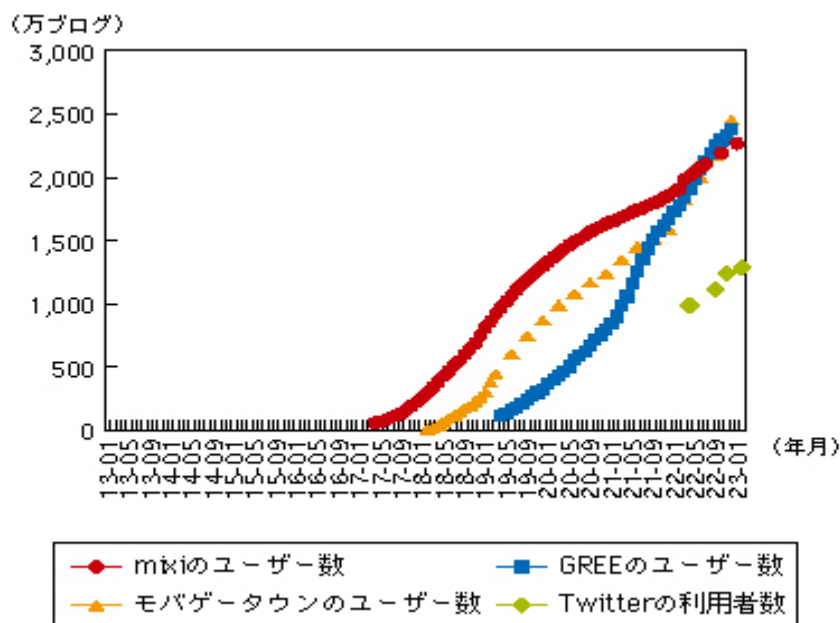
SNSというのは、「ミクシィやツイッター、フェイスブックなど、個人が情報を発信し、それを見た人と意見や感想を伝え合うインターネットの事」をいうとされています（超訳「カタカナ語」辞典から）。

総務省の調査によると、平成16年にミクシーやグリー、平成18年にはモバゲータウンなどのSNSがサービスを開始すると共に、平成20年にはツイッターの日本語版インターフェースが利用可能となり、SNSの利用者は下表の様に急激に増加しています。

今やSNSは、企業と学生、学生同士の情報交換ツールとしても欠かせない存在となっており、SNSを使って就活する事を「ソー活」というのだそうです（超訳「カタカナ語」辞典から）。

現代社会は、人間関係が希薄になっているといわれていますが、一方では、下表を見ても分かるように、SNSを通じて「自分が興味・関心を持っている情報を伝えたい」、逆に「自分の興味・関心のある情報を知りたい」、「自分の近況を伝えたい」といった、他者との繋がりを求めている人が非常に多いという現実には考えさせられます。

(参考) 国内のSNSユーザー数の推移



(平成23年版情報通信白書から)

インターネット上の掲示板もSNSの1つではありますが、この掲示板は、悪質な書き込みや誹謗中傷など、いじめの温床ともいわれています。掲示板は、不特定多数の人が誰でも自由に意見を書き込めるというメリットがある一方、その匿名性故に様々な問題を生んでいます。

これに対して、ミクシーやフェイスブックは、会員制のネットワークシステムで、特にフェイスブックの場合は実名登録が原則とされていますので、知人、友人間のコミュニケーションを深める場として活用されているようです。ところが、ここに職場の人間関係が入り込んで来たら、ソーシャルがソーシャルで無くなってしまいます。

フェイスブックの場合、「友達」申請をし、それを承認すれば互いの書き込みが見られるようになるというのですが、職場の上司や同僚が見ていると思えば、自由に書き込みが出来なくなるというのは当然です。もっとも、「友達」関係を断れば済む話ですが、普段職場で顔を合わせる事を考えると、そう簡単な話ではありません。

朝日新聞は、保健同人社の「ソーハラに遭わないための3カ条」を紹介しています(1月7日付)。その内容は、

- ・ SNSを誰に見て欲しいのか、誰と友達になりたいのか、何をしたいのか明確にする
- ・ 職場の人とは友達にならない等のルールを決めて公言し、友達申請を断る勇気を持つ
- ・ 「ソーハラ」に遭いそうな時はSNSを暫く休止する

というのですが、考えて見ればSNSはソーシャルな世界ですから、まずはそれ

を利用する人自身がメリットとデメリットを良く理解して、しっかりと自己防衛して行く必要があるということです。

また、今の子ども達は「デジタルネイティブ」から一歩進んで「ソーシャルネイティブ」といわれ、下表（博報堂生活総合研究所の調査による）に見られる様に、子ども達のコミュニケーションのツールはメールからSNSに移りつつあるようです。

年 度	07年度	12年度
メル友がいる	60.4%	48.3%
アバターを利用したSNSに参加	13.8%	18.5%
それ以外のSNSへの参加	6.6%	10.7%
アバターを利用したSNSへの参加意向	15.2%	23.2%
それ以外のSNSへの参加意向	7.8%	17.7%

多くの人々がSNSを利用するのは、その繋がり易さにあると思います。場所や時間の制約を超えて、人と人が繋がり、交流の輪を広げて行く事は素晴らしい事ですが、しかし、SNSはあくまでも仮想社会である事を忘れてはならないでしょう。SNSをフェイス・ツー・フェイスという現実の繋がりと同様にしてはならないという事です。

また、SNSは簡単に他者と繋がる事が出来る為に、性的被害に遭う未成年者が後を絶ちません。

SNSに引き寄せられる子ども達は今後ますます増える事が予想されますので、学校教育の場においても、より一層きめ細かい情報教育が必要となっている事は確かだと思います。（塾頭：吉田 洋一）